

州西南部下總まで。

Subsect *Nipponicae* KITAMURA subsect. nov.

多年生、木質、灌木、約一米の高さに達す。莖は五生、多數密生、筒形無柄、肥厚。頭花は單生大。邊花の果實はやゝ三角軸 (triquetera) にして心花の果實より小さく多數の肋線あり多少灣曲し扁平である、頂部には極めて短かき冠毛あり。心花の果實は狹圓柱形にして多數の肋線あり頂部には明瞭に小冠狀で齒牙邊の冠毛がある。花盤は圓錐形、無毛。これは *Argyranthemum* と *Pyrethrum* との間である。

1). *Chrysanthemum nipponicum* MATSUM.—ハマギク—磐城、陸前、陸奥。

尙京都の人が昔圓山の菊谷に自生しそれを菊谷菊と云つて認識してゐた菊は目下やはり土地の好事家が大切に殘してゐるが、これは *Chrysanthemum lavandulaefolium* MAKINO である。今でも貴舟に行つても宇治に行つてもある。私は分類學を勉強したお陰で昔の眞葛ヶ原にあつた菊谷菊をなつかしむ事が至る處で出来る。

尙第三卷四號 p. 204 に發表した *Chrysanthemum indicum* var. *procumbens* なる組合せは既に中井博士朝鮮植物誌第二卷 p. 25 にあるのでこの學名の Author は *Chrysanthemum indicum* var. *procumbens* NAKAI とすべきで筆者の誤りを訂正する。

## ヤブソテツの二變種

田 川 基 二

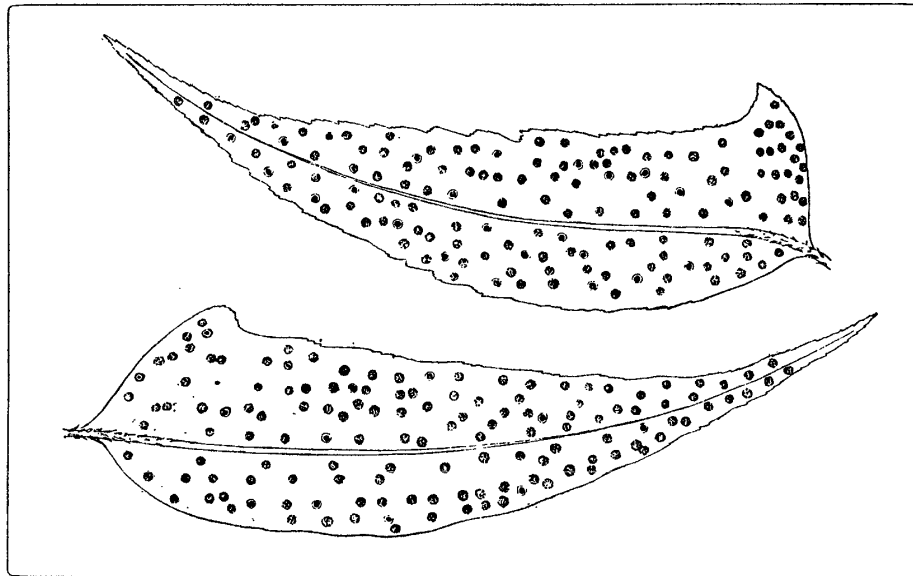
M. TAGAWA: Two varieties of *Cyrtomium Fortunei* J. SMITH.

昨年本誌第3卷第2號に日本のヤブソテツ屬の種類に就て記したが、その後山本肇氏によつてヤブソテツの一新變種と思はれるものが山城國乙訓郡大原野村灰谷に發見せられたからこゝにこれを追加し、なほヤマヤブソテツも同時にヤブソテツの變種に改めやうと思ふ。

この新變種はヤブソテツより大形で葉柄は 30-40 纏葉片は長さ 50-60 纏、幅 25-30 纏、羽片は 10-12 對、披針形で稍刀狀に曲り、漸次細くなつて先は鋭く尖つてゐる、基脚もヤブソテツやヤマヤブソテツよりは尖つてゐる、大いものは長さ 15 纏、幅 4 纏もある、邊緣には小さい鋸齒があり、なほその上に齒牙狀の缺刻があることもある、表面には全く光澤がない、包膜の中心は黒褐色で周圍より色の濃い點はオニヤブソテツに似てゐる。

大さや羽片の數はヤマヤブソテツに一致するが、羽片の形や包膜の色でヤブソテツともヤマヤブソテツとも區別のできるものである。一見ヤブソテツとは大に異なるも

ののやうであるが種を分つ程の差もないからその變種として次の如く命名しやう。



ミヤコヤブソテツの羽片 × $\frac{3}{8}$

**ミヤコヤブソテツ (新稱)**

**Cyrtomium Fortunei** J. SMITH: TAGAWA in Acta Phytotax. Geobot. III. p. 61 (1934).

var. **intermedium** TAGAWA, var. nov.

Pinnae utroque latere 10–12 jugae, lanceolatae leviter falcatae gradatim acuminatae, supra opacae, margine minute serratae, praeterea saepe dentatae, indusiis centre brunneis, pinnis maximis 15 cm longis 4 cm latis.

Hab. Honsyû: prov. Yamasiro, Otokuni-gun, Ôharano-mura, Haidani (H. YAMAMOTO, no. 953, anno 1934—typus in Herb. Univ. Imp. Kyôto); ibid. (H. YAMAMOTO, no. 288, anno 1933).

次に

**ヤマヤブソテツ**

は今まで獨立の種として取扱つてゐたが、これもヤブソテツと種を分つ程はつきり區別の出来るものではないからヤブソテツの變種として學名を次の如く改めやう。

**Cyrtomium Fortunei** J. SMITH

var. **clivicolum** (MAKINO) TAGAWA, comb. nov.

Polystichum caryotideum var. clivicolum MAKINO in Journ. Jap. Bot. III. p. 6 (1926).

Polystichum clivicolum MAKINO, l. c.

Cyrtomium clivicolum TAGAWA in Acta Phytotax. Geobot. III. p. 61 (1934).